

MLC230 ヨーロッパの表象文化

2年 1,2クォーター

担当教員 松田 和之、磯崎 康太郎

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 金曜日・2時限

授業概要

本科目では、メディアが作り出す近現代ヨーロッパの表象文化について考察する。19世紀と20世紀との分岐点に位置する映画を中心的な研究対象としつつ、それに前後する文脈として、多様な芸術作品を具体的に学んでいく。

前半の8回は磯崎が担当し、19世紀以降のドイツ語圏の表象文化とメディアの関係について、小説、絵画、映画、パフォーマンスアート等を取りあげ、記憶と想起の問題がどのように扱われているかを考察する。

後半の7回は松田が担当し、20世紀における神話や聖書の舞台化・映画化の具体的な事例を踏まえ、随時作品鑑賞を織り交ぜながら、ヨーロッパ文化を支える二大支柱ともいえるヘレニズムとヘブライズムに関する知識を涵養するとともに、複合的な表象媒体としての映画の特質について考察を深める。

なお、年度によって前半と後半の順番が入れ替わる場合がある。

到達目標

- (1) EUの中核であるフランス語圏、ドイツ語圏の文化事情、メディア事情について理解を深める。
- (2) 19世紀から21世紀にかけての表象文化が、現代社会のなかでもつ意義について考察する。
- (3) 同じ内容を扱う場合であっても、表現形式やメディアが異なることによって生じる相違点について考察を深める。
- (4) 与えられた課題に各自が責任を持ち、積極的に協働的な学びを経験する。

期待される効果

- (1) 言語表象と映像表象の双方の観点から、ヨーロッパ文化の基礎知識を身に付ける。
- (2) 近年の文化研究、メディア研究の動向を知り、ヨーロッパの文化事情をめぐるさまざま立場に精通する。
- (3) 人文科学の学問がもつ複眼的かつ批判的思考を身につける。
- (4) 現代日本のメディア事情、映画事情との比較の手がかりを得て、以後の研究活動に活かす。

先修科目

必修としては設定しないが、フランス語、ドイツ語とその関連科目を履修することが望ましい。

教科書・参考資料等

配布資料を主たる教材とするため、教科書はとくに指定しない予定である。参考書は、以下のものを挙げておく。

- (a) 佐藤琢己『現代メディア史』 岩波書店 1998年
- (b) アライダ・アスマン『記憶のなかの歴史』 松籟社 2011年
- (c) 吉田敦彦『オイディプスの謎』 講談社 2011年
- (d) 栗林輝夫『シネマで読む新約聖書』 日本キリスト教団出版局 2005年

授業の方法

この授業は講義形式を基本とする。担当教員は講義を行い、定期的に読書課題を与える。受講生は、事前にこの課題に取り組み、毎回の授業時にリアクションペーパーをまとめる。また、受講生は、前半と後半それぞれの最終レポートを仕上げる。

成績評価

リアクションペーパー

各回の授業の最後に記入の時間を与え、受講生が授業を振り返り、授業の内容とそれについての意見、質問、要望などをまとめる。

学期末レポート

レポートのテーマは、受講生の関心に応じて各自で設定してもらうが、講義内容や課題図書等の内容を踏まえることが求められる。

成績

40% リアクションペーパー

60% 学期末レポート

授業スケジュール

第1回: ガイダンス, 導入: 新旧のメディア論について

第2回: 19世紀までの「声の文化と文字の文化」について

第3回: 新しいメディアの時代におけるベンヤミンの「アウラ」と「複製技術」

第4回: メディアとしての写真——ソントグとバルト等の視点から

第5回: 写真と映像の文化——20世紀への転換点

第6回: 戦争とメディア

第7回: 都市空間（ドイツ語圏）のメディアとその可能性①

第8回: 都市空間（ドイツ語圏）のメディアとその可能性②／前半のまとめ

第9回: ヨーロッパ文化の二大支柱—ヘレニズムとヘブライズム—

第10回: ソフォクレスの『オイディプス王』—伝統的なオイディプス像—

第11回: コクトーのオイディプス解釈①—オペラ=オラトリオ『オイディプス王』—

第12回: コクトーのオイディプス解釈②—戯曲『地獄の機械』—

第13回: パゾリーニのオイディプス解釈—映画『アポロンの地獄』—

第14回: イエス=キリストの磔刑—キリスト教の教義の骨子—

第15回: 映画に描かれた「ゴルゴダの丘」—『ベン・ハー』、『奇蹟の丘』他—

事前・事後学習

- ① 講義各回に取り上げる読書課題を事前に一読すること。対応する参考図書の項目を一読すること（予習）。
- ② 講義聴講の後に、講義された内容・配布資料と共に対応する参考資料等の項目について理解を深めること（復習）。